Bull. Mukogawa Women's Univ. Humanities and Social Sci., **40**, 121－128(1992)
武庫川女子大紀要（人文・社会科学）

兵庫県下における新体操教室の実態について（No. 2）

伊　達　萬里子
（武庫川女子大学文学部教育学科体育専攻）

An Investigation into the Actual Condition of Rhythmic Sports Gymnastics Club in Hyogo (No. 2)

Mariko Date

Department of Physical Education, Faculty of Letters,
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan

The present report announces the sequel of the report which appeared in the previous number of this publication.

We discussed basic characteristics of Rhythmic Sports Gymnastics Club in our first report. The present report is concerned with the expansion of data regarding this object and the presentation of results. This report shows the results of analysis conducted in the same way as the investigation referred to in the previous essay.

We arranged the results of the chief examinations item, and showed in Fig. 1.～Fig. 3. and Table 1.～Table 7.

The summary of the results is shown below.

The following was clarified by this research about the children conscious and the parents conscious are differences in judgement.

The investigation Rhythmic Sports Gymnastics Club in Hyogo is summarized above and it is evident that more work using different approaches is necessary.

I considered it necessary to make a plan in future based on this date.

緒　　言

日本の社会は文化の発展と共に国民の健康は蝕まれ，体力は低下しつつある現状であるといえる．このため学校体育では，学習指導要領の改訂で健康の増進と体力の向上，さらに生涯体育へと発展する能力と態度を養う事が強調されて来た．

又社会体育においても近年盛んに各種スポーツが実施されるようになった．その中でも新体操は，芸術とも言える優美な美しさにひかれ，新体操教室に在籍する者が多くなってきた．その増加は，目を見張るものがあり，県下のジュニア大会でも参加人数が昭和60年頃より急激に増え始め200人近くとなり，選手以外も計算するとこの2倍以上となるであろう．

又，経験を積んだ指導者により，技術的にも全国に通用する上位レベルの選手が育って来ている．この背景には，家庭環境の影響があると考え，前回は，児童･生徒がどのような目的意識をもって所属しているのか，又家族はこれに対してどう対処しているのかを探求しようと試みた．

今回は，児童･生徒との家族の意識及び実態をより明確に比較考察し，新体操をさらに普及，発展させるべき資料を得ることを目的としている．

研究方法

1. 調査期間　平成2年4月上旬～平成3月1月上旬
2. 調査対象　兵庫県下の新体操教室に所属する6～14歳の女子（100人）と両親（200人）
3. 調査内容　質問紙法によるアンケート調査（回収率　84%）を実施し，記述統計及びクロス集計により，考察した．有意差の検定に関しては，x^2 検定を用いた．

1）年齢と体位の概要

Table 1. Comparative study of Heigt and Weight

項目	N	Max	Min	M	SD
年令（歳）	100	14	6	10.0	35.99
※身長（cm）	100	171	110	146.0	6.10
※体重（kg）	100	50	17	36.7	23.46

※　r＝0.941　1% で有意差あり

年齢別人数　6歳…3人，7歳…11人，8歳…13人，9歳…9人，10歳…24人，11歳…18人，12歳…8歳，13歳…8人，14歳…8人

2）所属開始年齢

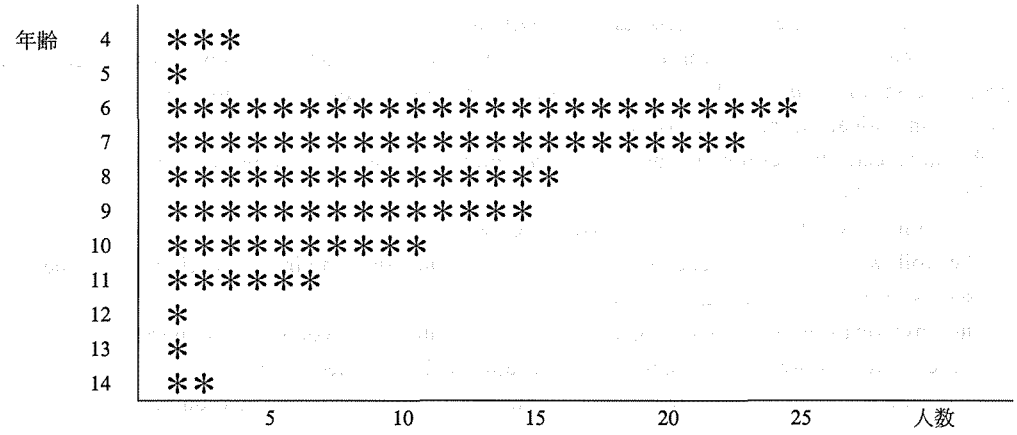

Fig. 1. Began to Rhythmic Sports Gymnastics

3）調査対象の全国的位置

（兵庫県は上位6番目に位置する．）

Table 2. Investigate the Actual Condition about Rhythmic Sports Gymnastics Club in Japan

ブロック	都道府県	教室数	設立年	コーチ数	幼	小	中	高	コース A	コース B	コース C	コース D	競技会	発表会
北海道	北海道	6	1972	17	13	210	25	1	○		○	○	◎	○
東　北	青　森													
	岩　手													
	秋　田	1	1987	1	3	57			○		○		◎	○
	山　形	3	1986	6		41	46		○		○		◎	○
	宮　城	2	1970	9	23	72	24		○				◎	○
	福　島	2	1981	13		100	24		○		○		◎	

兵庫県下における新体操教室の実態について（その２）

ブロック	都道府県	教室数	設立年	コーチ数	幼	小	中	高	コース				競技会	発表会
									A	B	C	D		
関　東	栃　木													
	茨　城													
	山　梨	5	1981	16	63	361	55	1	○	○	○	○	◎	○
	群　馬	1	1985	2		18	5	2	○		○			○
	埼　玉	4	1985	9	2	83	105	1	○		○	○	◎	○
	千　葉	6	1980	38	407	1096	280	10	○	○	○	○	◎	○
	東　京	12	1970	73	310	1758	252	31	○		○	○	◎	○
	神奈川	9	1977	43	50	478	68	20	○		○	○	◎	○
北信越	長　野													
	新　潟													
	富　山	1		1		20			○		○			○
	石　川													
	福　井	2	1979	6		52			○		○		◎	○
東　海	岐　阜	2	1979	9		105	5		○		○			○
	静　岡	7	1980	35		158	129	7	○		○	○	◎	○
	愛　知	1	1984	1	14	157	12	2	○		○			○
	三　重	2	1980	2	3	95	2	7	○		○			○
近　畿	滋　賀													
	京　都	5	1977	8	27	214	53	6	○		○		◎	○
	大　阪	3	1979	5		78	15	5	○		○		◎	○
	兵　庫	3	1984	13		277	34	3	○		○		◎	○
	奈　良													
	和歌山													
中　国	鳥　取													
	岡　山	2	1986	4	7	50	8					○	◎	○
	島　根	1	1985	3	2	56	3	1	○					○
	広　島	1	1984	4	1	64	4		○					○
	山　口	1	1985	1	1	30			○					○
四　国	香　川	1	1977	1		15			○				◎	○
	徳　島													
	愛　媛	1	1986	6	10	50			○					
	高　知	1	1982	1	9	43	5	2	○			○	◎	○
九　州	福　岡		1984	14	10	380	35		○		○		◎	○
	佐　賀	1	1983	6	10	80	20	10	○				◎	○
	長　崎	1	1979	3		10						○	◎	○
	大　分	2	1983	19	30	203	27				○		◎	○
	宮　崎	1	1976	2	27	35	8		○		○		◎	○
	熊　本	1	1972	10	10	20	20	10	○		○		◎	○
	鹿児島	1	1975	5	5	27	2		○				◎	○
沖　縄	沖　縄													
合　計	47	102		386	1037	6493	1266	119	31	2	23	11	25	32

※○コース　A…… 女子選手コース
B…… 男子選手コース
C…… 健康、体力増進コース
D…… その他

○競技会　◎は、ブロック大会への参加

結果と考察

1.　運動の好嫌

運動に対する親子の意識を調べ，比較検討した結果を，表3に示した．

Table 3.　Likes and Dislike of Sports

	好　き	嫌　い	普　通	N
本人	94	1	5	100
父	76	4	20	100
母	64	9	57	100

d.f.＝4　　x^2＝27.09　　p＜0.01

Table 3.に示すとうり運動への関心について親子間に x^2 検定の結果1%の有意差が認められた．「好き」が，子供で9割以上と最も多く，次いで父親7割，母親6割という順であった．新体操の特徴として，体操領域の徒手の基本運動から，クラッシックバレーやダンスの基本ステップ等を含み，リズミカルな音楽に合わせて踊る為，活発で体を動かすことの好きな子供の興味をひくのかもしれない．所属した動機にも，楽しそう，おもしろそう，奇麗だからという割合が非常に多いことからもうかがえる．又，両親の日頃からの関心の高さや理解もその背景にあると思われる．両親共学生時代に何らかの運動に7割が親しみ，関心も8割と深く，現在でも運動を実施している父親が5割，母親が4割という状態である．母親の割合が少いのは，子供の年齢がまだ低く，又兄弟のいる家庭が9割近いということで手が離せない現状かも知れない．

2.　新体操教室に所属した動機について

Table 4.　A Motive for belong to Club

①家族･知人等の勧告	②マスコミ等によって	③精神的動機によって	④身体的動機によって	⑤その他	N 100
※					5
※	※				3
※	※	※			7
※	※	※	※	※	2
※		※			9
※		※		※	7
※		※	※	※	3
※			※		3
※			※	※	4
※				※	2
	※				4
	※	※			16
	※	※	※	※	5
	※	※		※	3
		※			8
		※	※	※	3
		※		※	3
			※		2
				※	7

※は選択した項目　　d.f.＝18　　x^2＝51.2　　p＜0.01

児童･生徒の所属した動機について①～⑤の項目を x^2 検定した結果 1% の有意差が認められた．回答数をみると，①類 51 人，②類 43 人，③類 150 人，④類 59 人，⑤類 37 人となった．この中で最多の③類は，その重複回答として，楽しそう… 47 人，手具がおもしろそう… 37 人，奇麗だから… 27 人，試合に出場してみたい… 12 人等となった．上記の Table 3.からもわかるように運動好きの子供の傾向ではなかろうか．又，テレビの影響も見逃せない．今年もバルセロナオリンピックで，華麗かつ優美な演技は人々を魅了した．新体操人口が増えたのも 1984 年ロスオリンピックからである．
次に①類で母親に勧められてが 30 人あり，その影響が伺える．

全体を通して言えることは，単一の要因よりも，全体の 8 割を占める複数の要因から所属を決定したと言えるのではなかろうか．

3.　新体操教室所属前後の個人的特徴を比較して

1) 親子による所属前後の比較

Table 5. Sensed Something for Belong to Club about Yours Characteristic

	① 明朗性			②忍耐力			③積極力			④健　康			有意差
	+	−	±	+	−	±	+	−	±	+	−	±	d.f.＝6
所属以前 (本人回答)	71	0	29	35	1	64	21	7	72	84	1	15	x^2＝72.43 p＜0.01
※所属後 (本人回答)	19	0	81	25	1	74	47	4	49	35	0	65	x^2＝15.89 p＜0.01
※所属後 (親の回答)	31	0	69	43	0	57	32	0	68	55	0	45	x^2＝15.71 p＜0.05

各 N＝100

《※クロス集計》

①…… d.f.＝2　x^2＝3.84　有意差なし
②…… d.f.＝2　x^2＝3.98　有意差なし
③…… d.f.＝2　x^2＝9.92　p＜0.01
④…… d.f.＝2　x^2＝4.04　有意差なし

前回の調査回答数上位 4 項目をクロス集計，検定した結果，所属以前の個人的特徴については 1% の有意差が認められた．所属後にかんしては同じく 1% の有意差であった．明朗で健康な現代っ子のイメージである．子供と親の診断比較を①～④の各項目について x^2 検定すると，明朗性，忍耐力，健康に関しては有意差は，認められず，積極性について 1% の有意差が認められた．子供 47 人，親 32 人が目的意識をもって頑張っていると答えている．

2)　所属後子供が感じたことについて

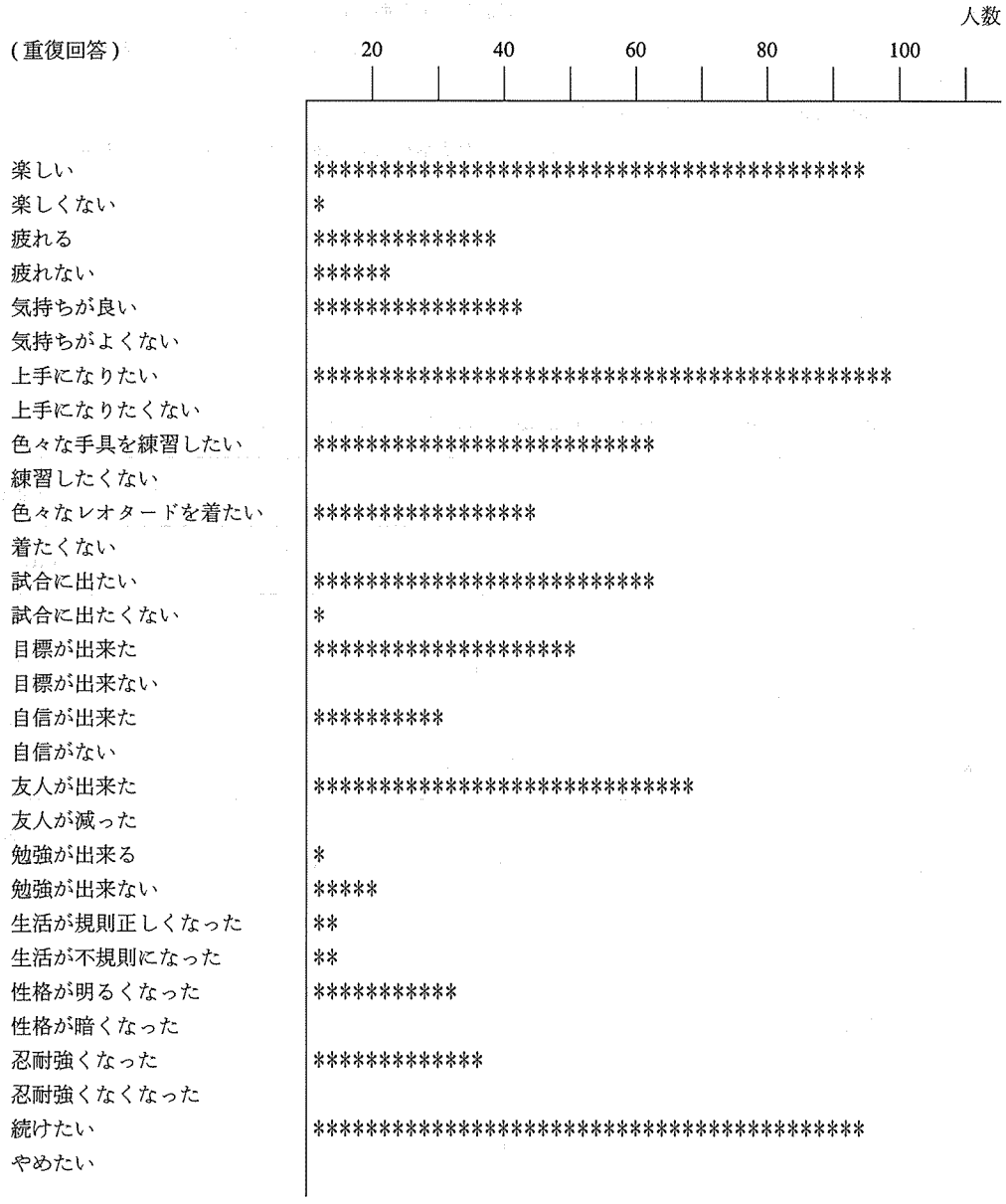

Fig. 2. Sensed Something for Belong to Club (Mental Characteristic)

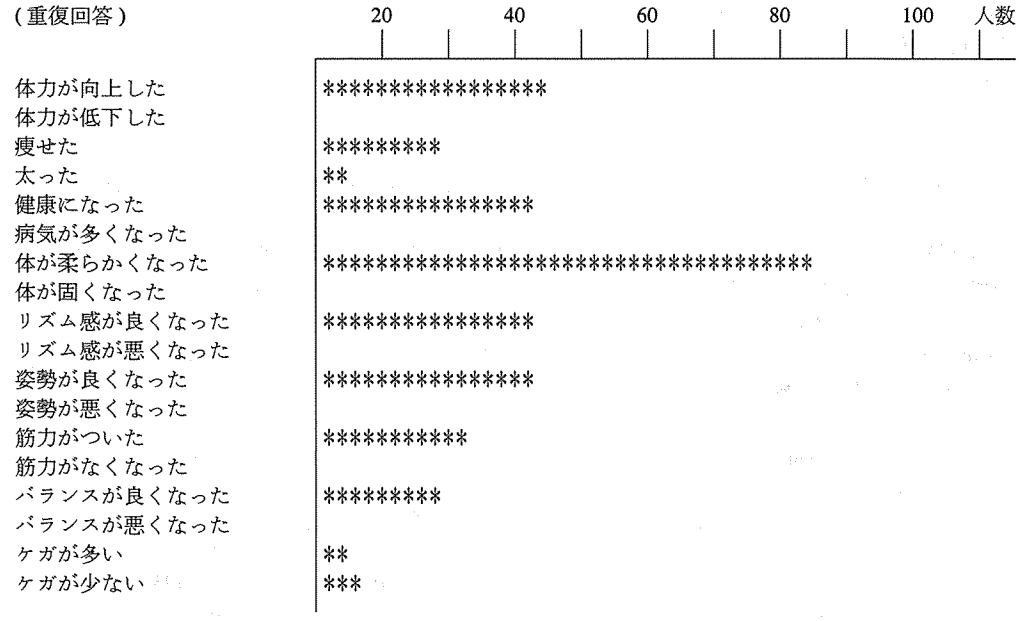

Fig. 3. Sensed Something for Belong to Club (Physical Characteritic)

4. 所属続行の希望と試合参加の希望を比較して

Table 6. Hope of Keep on Belong to Club and Take Part in the Game

各N＝100	Ⅰ クラブの続行希望	人	%	Ⅱ 試合参加希望	人	%
本　人	は　い	81	81	は　い	48	59.3
				いいえ	3	3.7
				わからない	30	37.0
	いいえ	1	1	は　い	0	0.0
				いいえ	1	100.0
				わからない	0	0.0
	わからない	18	18	は　い	5	27.8
				いいえ	1	5.5
				わからない	12	66.7
親	は　い	83	83	は　い	63	75.9
				いいえ	6	7.2
				わからない	14	16.9
	いいえ	1	1	は　い	0	0.0
				いいえ	1	100.0
				わからない	0	0.0
	わからない	16	16	は　い	5	31.3
				いいえ	3	18.7
				わからない	8	50.0

	d.f.＝8	x^2＝10.64	有意差なし
クロス集計　Ⅰ	d.f.＝2	x^2＝ 0.14	有意差なし
クロス集計　Ⅱ	d.f.＝2	x^2＝ 9.78	$p<0.01$

親と子に関して，所属続行の希望，および試合参加の希望にたいする回答結果を表6に示した．x^2 検定の結果親子間に有意差は，認められなかった．

親子共に続ける事を希望しているが，試合参加に関しては，親の方がより積極的である．このまま続けて試合にも出場して頑張ってもらいたいと考えている．親の回答の中で「わからない」としているのは，子供の自由意志に任せると言うのが大半であった．

子供の試合参加希望の項目で「続行するがわからない」と回答している事に関しては，運動の爽快感を得ることに重点をおいているのではなかろうか．

次に続行も試合参加も希望していない子供1人，親1人は，家族である．子供は痩せる目的で母親の勧めにより所属したが，意図する事と教室での指導内容の相違からこの回答になったのかもしれない．

5.　試合の参加及び入賞希望に関して

Table 6.で試合に参加させたいと希望している親に試合成績をどのように考えているのか，回答を求めて x^2 検定を実施した結果，1% の有意差が認められた．

Table 7. Hope of Take Part in the Game and Won the Prize

	参加希望	試合入賞
は　い	69	56
いいえ	10	10
わからない	21	34
N	100	100

d.f.＝4
x^2＝143.12
P＜0.01

試合参加希望の親のうち8割が子供の成績に期待していることが分かる．子供が頑張っているから勝たせてやりたいという親心であろうか．今日の教育にたいする熱心さがここでも伺える．

ま　と　め

今後新体操を更に普及発展させて行くためには，ジュニア層の拡大が課題である．今日社会体育の教室で数多くの運動種目が取り上げられているが，その中で新体操は見た目の美しさから，女子の興味をひく種目である．この特性を生かし，より良い指導を実践し，育成して行かねばならない．しかしながら対象者が低年齢のため家庭との関連は，深く，家族の理解が非常に大事である．その中で，運動に対する興味や関心があり，理解を示している家庭環境では，その子供が好きという割合が大変高く，良い傾向であると言える．子供の活動を満足させる為には，家族が子供との意識の相違に留意し，子供の目的を正確に把握せねばならない．特に，試合に参加させて入賞を考えているとした回答結果は，x^2 検定で有意差1% であったことからも言えるのではなかろうか．

文　　献

1）伊達萬里子，日本体育学会大会号，40，p.578(1989)
2）伊達萬里子，武庫川女子大学紀要，38，p.141～148(1990)
3）遠山喜一郎，関田史歩保子，高橋衣代，長谷川洋子，小林由美子，新体操·上，不昧堂出版，p.3(1981)
4）石崎朔子，新体操研究会，中学校の新体操，明治図書，p.17～21，p.25～27(1985)
5）リシツカヤ　T.S.（加茂佳子，本多英男訳）ソ連の新体操，不昧堂出版，p.182～183(1989)
6）藤島八重子，ビュティフルスポーツ新体操，KKぎょうせい，p.7(1984)
7）加茂佳子，図解コーチ新体操，成美堂出版，p.9～10(1978)